

人文研紀要

第27号～第30号(1997年)

◆第27号—1997年(1997年11月発行 A5版317頁)

Shakespearean Drama and the Noh : <i>Theatrum Mundi</i> and Nothingness (2)	Izumi Momose
Ford Madox Ford: Notes on a Literary Revival	A. P. Collins
トマス・ハーディの知的背景 — <i>A Laodicean</i> をめぐって	松本 啓
「コンゴ・ジャーナル」試論 —グレアム・グリーン ¹ の紀行文を読む	戸嶋 まゆみ
ウルフと「夜」	岡本 正明
80年代のソレルス(2) —「ゆるぎなき心」の場合—	水野 明路
「文学」とル・クレジオ作品における「文学性」	杉村 裕史
複文研究メモ(1) —連体節・名詞節と名詞—	野田 時寛
留学生のモダリティ表現	蟹江 庸子
日本軍毒ガス作戦日誌初稿補遺 五 —一九四三年を中心に—	斎藤 道彦
八十年代ドイツフェミニズム批評と「女性の伝記」 —新しい可能性の物語を求めて—	長谷川 弘子
萩原朔太郎 —『月に吠える』前派再論	中川 敏

◆第28号—1997年(1997年11月発行 A5版325頁)

ルソー論のための小さなエスキース	永見 文雄
フーゴ・ベタウアー・レポート	飯塚 公夫
19世紀ドイツにおける反ユダヤ主義の形成	飯森 伸哉
他者との非 ^{アシンメトリー} 対称的な関係について —カネッティの「見えざる者」を解釈する—	黒田 晴之
中欧のユダヤ作家たち —カフカ, シュルツ, アッペルフエルドを中心に—	須藤 正美
東南アジアの文化とマンタリテ —シンガポール, マレーシアを中心として—	寺内 礼治郎
東マレーシア先住民の文化とマンタリテ(その1) —サバ州の場合—	王 斑
東マレーシア先住民の文化とマンタリテ(その2) —サラワク州の場合—	寺内 まどか
顔という観点から文化を見る	山口 真美
パトリック伝承受容の性格と歴史的背景 —アイルランド文芸復興期を中心に—	盛 節子
中大社会学の回想	加藤 正泰
ことわざと現代社会	渡辺 友左
国民性論(二) —誕生原理の理論—	世良 正利
《研究ノート》 ニール・ガン『ハイランドの川』の境位	小菅 奎申

◆第29号—1997年(1997年11月発行 A5版340頁)

英国墓碑銘論(XIII) —19世紀前半(3)	岡地 嶺
Arthur Hugh Clough の <i>Dipsychus and The Spirit</i> とその関連詩篇	森松 健介
再論「文化の擁護・1935」	石黒 英男
文学への洗礼(I) —ゲーテおよびトーマス・マンの場合—	須磨 一彦
ワーグナーの芸術と思想 —トリスタンとイゾルデー	三富 明
ヴェーデキントの『カイト侯爵』について(3) —貨幣・都市・群衆—	荒木 詳二
シラーの作品『芸術家』と『人間の美的教育について』における「芸術」の役割	稲垣 孝博
ゲーテの『メールヒエン』におけるシンボリズム	林 捷
ゴヤにおける世紀末性 — 『黒い絵』をめぐって—	小山田 義文
オーストリアの愚か村話の背景	飯豊 道男

◆第30号—1997年(1997年11月発行 A5版273頁)

はじめに

特集 沖縄問題の諸相	
沖縄の基地から見た戦後日本 —沖縄大学教授・新崎盛暉氏に聞く	伊藤 成彦
明治国家の琉球併合 —琉球処分の政治過程	我部 政男
米軍基地と反戦地主 —基地の形成と反戦地主・池原秀明さんの話	伊藤 成彦
沖縄の女性運動	李 静 和 長谷川 曾乃江
沖縄の慰安所規定についての若干の考察	吉見 義明
社会大衆党と沖縄の政治	星野 智
基地・平和・自治 —読谷村長・山内徳信氏との対話	有澤 秀重
国際社会における沖縄の力	サドリア・モジュタバ